

# 福音時報



■	目次	説教 自由の風よ、吹け …… 吉平 敏行 …… 1
		大信仰問答 CATS・愛① 教会員へのインタビュー …… 信仰と制度に関する委員会 …… 2
■		旧約聖書に聴く「原初史が語る人間と世界」(7) 「カインの子孫」 …… 高松 牧人 …… 4
		憲法改正25年(第10条) わかれ道に立って、よく見 …… 南 純 …… 5
		3・11特集 東日本大震災発生から10年をむかえて …… 千葉 正彦 …… 6
■	書評	『裁かれなかった原発神話 ～福島第二原発訴訟の記録～』 松谷彰夫著 かもがわ出版 …… 金田 聖治 …… 7
		コロナの現場⑦ 備えてくださる主 …… 竹下 道代 …… 8
		コロナ禍の中で⑯ コロナ禍が私達に問う …… 菊地 純子 …… 8

## 自由の風よ、吹け

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず

(ヨハネによる福音書8章1～11節)

よし ひら とし ゆき  
吉 平 敏 行

イエスの口から出た一言が、険しい空気を一変させることになった。義に駆られ、悪は断罪すべきとする鋭い眼差しは、目つぶしでもくらったかのように力を失った。その場に残ったイエスと女を、穏やかな空気が包んでいた。

神殿の境内でイエスが教えておられると、男たちが姦通の現場で捕まえたという女を真ん中に引き出し、イエスに詰め寄る。「先生、…こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。…あなたはどうかお考えになりますか」。もしイエスが、「石で打ち殺せ」と命じれば、私刑を禁ずるローマの法に違反する。しかし、もし「赦してあげよ」と言えば、律法を犯すことになる。法のあるところ法は支配し、法を破れば法によって裁かれる。それはイエスといえど免れることはない。

イエスはかがみ込んで、地面に指で何やら書き始められる。訴え続ける者たちに、身を起こして言われる。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」。「この女に石を投げよ」と命じられる。「赦してあげよ」ではなかった。一瞬、男たちは怯んだであろう。しかし、「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず」である。この一言が、イエスを罫に陥れようとする者たちの気を挫くことになった。女に石を投げて良い。しかし、まず自らを問うてみよ、と。自分を義しいとする思いからくる憤りは、自分に咎めを感じた瞬間に収まったのである。

罪とは「人間はみんな罪人だからなあ」などという、痛くも痒くもない話ではない。そうした罪の理解が、「だから、そんなに責めるなよ」となり、加

害者に甘い空気を生むことになる。罪の本体は身を隠し、律法によって機会を捕らえて人を欺き、法を使って人を死に至らせる。しかし、イエスの一言で、訴える者たちに潜んでいた罪の正体が現れ憤怒を鎮めることになった。空中に勢力を持つ霊に欺かれて人を責め続ける邪気は払われ、我に返ったかのように、年長者から順に、一人また一人と去っていった。

イエスが女に尋ねる。「婦人よ、あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか」。女は「主よ、だれも」と応える。するとイエスは、「わたしもあなたを罪に定めない」と言われる。彼女を裁くことのできる唯一の方が、「あなたを罪に定めない」と仰る。罪を犯したゆえに裁かれるはずの女は、イエスによって解放された。

イエスの言は、自分を義しいと思い込み、他人を裁き続ける者に自分の罪を思い起こさせ、裁きに服するしかないと思っていた罪人を解放する。だれであれ自分にも罪があることを認めるならば、他人を安易に裁くことなどできないことが分かるであろう。

パウロは自分の体を「死に定められたこの体」(ローマ7:24)と叫んだ。人は、その罪の体から救われたいと願う。それは、キリスト・イエスに結ばれている者たちに実現している(ローマ8:1)。

教会はキリストによって罪から救われた人の集まりである。その教会に、キリストから「地上で罪を赦す権威」が委託されている。「わたしもあなたを罪に定めない」という主イエスの言が力強く宣言され、罪赦された者たちの自由で穏やかな風が吹いてくることを祈る。(神戸布引教会牧師)